第2章 ―――― ①

知る 備える

●特集　災害に備える

普段の準備がいざというときの冷静な行動に

家具などを固定し室内の安全を確保

阪神大震災では、約八割の人が建物や家具の転倒が原因で亡くなりました。この教訓から地震対策で最も重要なのは「室内の安全」、つまり、家具の転倒防止です。家具を固定するだけで、多くの被害を防ぐことができ、安全な場所へ避難する通路も確保することができるのです。

また、家の中で高い家具などがない場所を探し、家族で確認し合うことも必要です。地震などで避難するときは、家族で避難場所の確認をすることも必要です。家族がばらばらになるということは、避難する際さらに危険を増します。災害時、何より心配なのは家族の安全です。普段からの災害に対する準備が、いざというときの冷静な行動につながり、大切な家族を守ることができるのです。

地震が起きたらまずは身の安全を

地震が発生したとき一番大切なことは、まず「自分の身を守る」ことです。地震が起きたら次のような行動を心掛けてください。

①丈夫なテーブルや机などの下に身を隠し、頭を保護します。揺れがおさまったら、家族の安否を確認します。

②使っていた火は、確実に消火します。もし火災が発生しても、天井に燃え移る前なら慌てずに初期消火をします。

③窓ガラスや食器が割れて散乱した場合は、素足での行動は危険です。スリッパなどを履いて移動します。

④ドアや窓を開けて脱出口を確保します。落下物などの危険があるので、外に出るときは、周囲の状況を確かめます。

⑤けがをしている人を発見したら、大きな声で周囲に知らせ、人を集めて救出活動をします。地域ぐるみでの助け合いも必要です。

⑥ラジオや地区の防災無線などから、正しい情報を得ましょう。

屋外での地震でも自分の身を守ること

家庭以外の場所で地震にあうと、とても不安なものです。しかし、揺れている間の行動は、家庭にいるときと同じです。まずは、「自分の身を守る」ことです。

屋外で揺れを感じたら、周囲の状況を見ます。電柱やブロック塀が倒れることもあります。こうした場所を避けるようにしましょう。

運転中の地震は左に寄りエンジン停止

車の運転中に地震にあうと、まるで蛇行しているような感覚に襲われます。落ち着いて、速度を緩めながら、道路の左端に寄りエンジンを切ります。

周囲の状況を確かめ、頭上からの落下物に注意します。こうした危険がなければ、カーラジオをつけ、情報を聞きます。

車を離れる場合には、もう一度エンジン停止を確認し、キーは付けたまま、ドアもロックしないようにします。

自主防災組織の確立が必要です

今一番恐れられているのは明治の三陸大津波の再来です。昨年末に県が公表した普代村の津波のシミュレーションでは、堤防があっても、あまり機能せず、普代分署も津波に飲み込まれます。

例えばこういう大きな災害が発生した場合、役場や消防機関は機能しないに等しいです。大規模な災害が発生すれば地域が孤立します。そのときこそ「結いっこ」の精神で、みんなが食料を出し合ったり、救助も行うことが必要です。「自分たちの地域は、自分たちで守る」。それが自主防災組織の目的です。

今、村内の各地区を回って、救急救命などの講習を行っています。それが自主防災組織につながってくれれば何よりです。

久慈消防署普代分署
柴田修佑分署長（57）
しばた・しゅうすけ